

広報

あなたと町をつなぐ情報誌

# はなわ



特集

Suigun Line 90<sup>th</sup> Anniversary

## 走り続けて90年

2024

12

令和6年12月1日

No.733





特集

Suigun Line 90<sup>th</sup> Anniversary

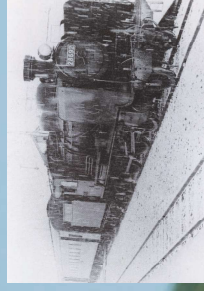
# 走り続けて90年

全線開通90周年記念  
ロコマニッ

## CONTENTS

|                 |    |
|-----------------|----|
| 水郡線開通への熱意       | 4  |
| 磐城塙駅今昔          | 8  |
| フォート水郡線         | 10 |
| 水郡線の現状          | 12 |
| 「地元の鉄路＝マイルール」   | 14 |
| 私たちも水郡線を応援しています | 16 |
| 首長、水郡線に乗車       | 18 |
| 水郡線よ、永遠なれ       | 20 |

今日もさっそうと走り抜ける  
水郡線現在の車両、  
キハE130系気動車。  
平成19年から運転を開始



昭和30年当時、磐城塙駅での  
蒸気機関車(SL)



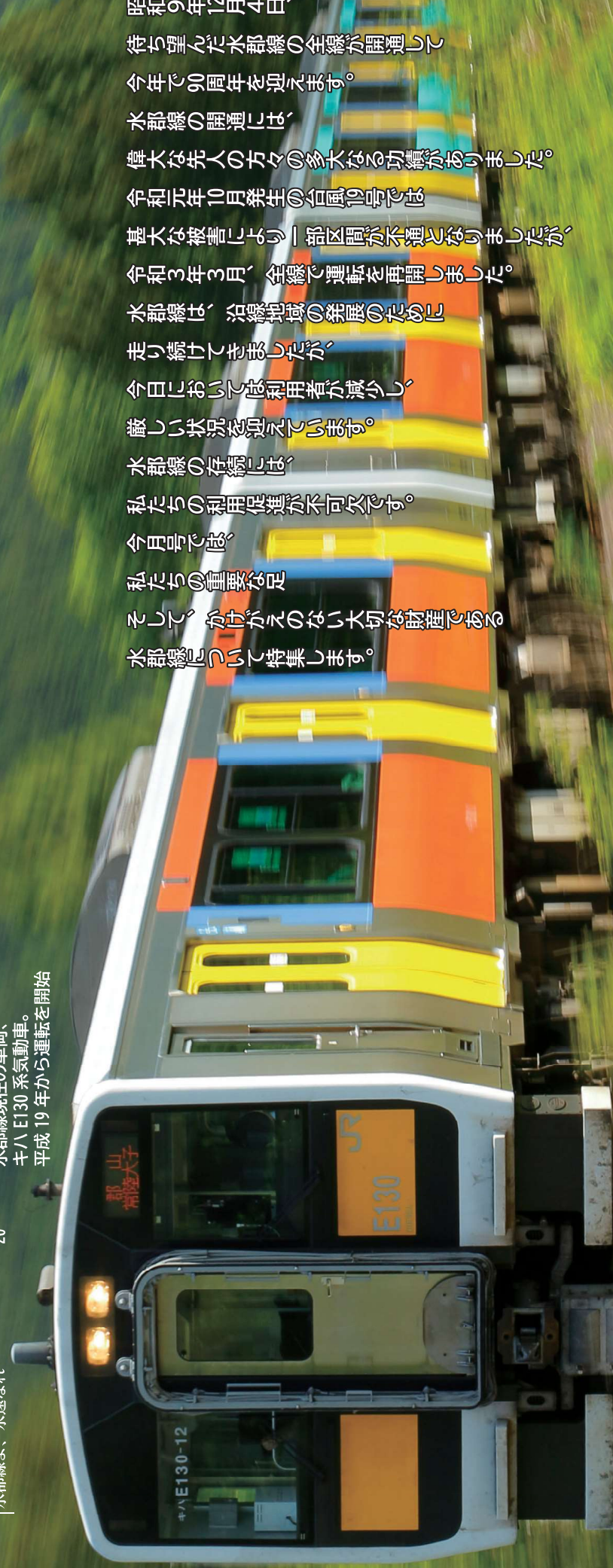
昭和時代を中心に活躍した気動車



平成元年から、水郡線色  
(白にオレンジ、緑のライン)  
の気動車も活躍

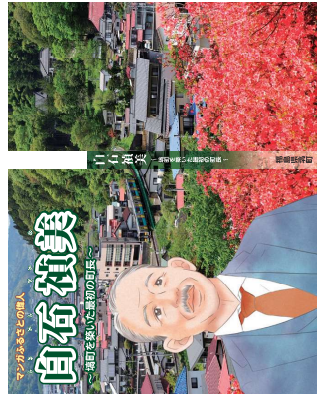


平成4年から運転を開始した、キハ110系気動車



昭和9年12月4日、  
待ち望んだ水郡線の全線が開通して  
今年で90周年を迎えます。  
水郡線の開通には、  
偉大な先人の方々の多大なる功績がありました。  
令和元年10月発生台風19号では  
甚大な被害により一部区間が不通となりましたが、  
令和3年3月、全線で運転を再開しました。  
水郡線は、沿線地域の発展のために  
走り続けてきましたが、  
今日においては利用者が減少し、  
厳しい状況を迎えています。  
水郡線の存続には、  
私たちの利用促進が不可欠です。  
今月号では、  
私たちの重要な足  
そして、かけがえのない大切な財産である  
水郡線について特集します。





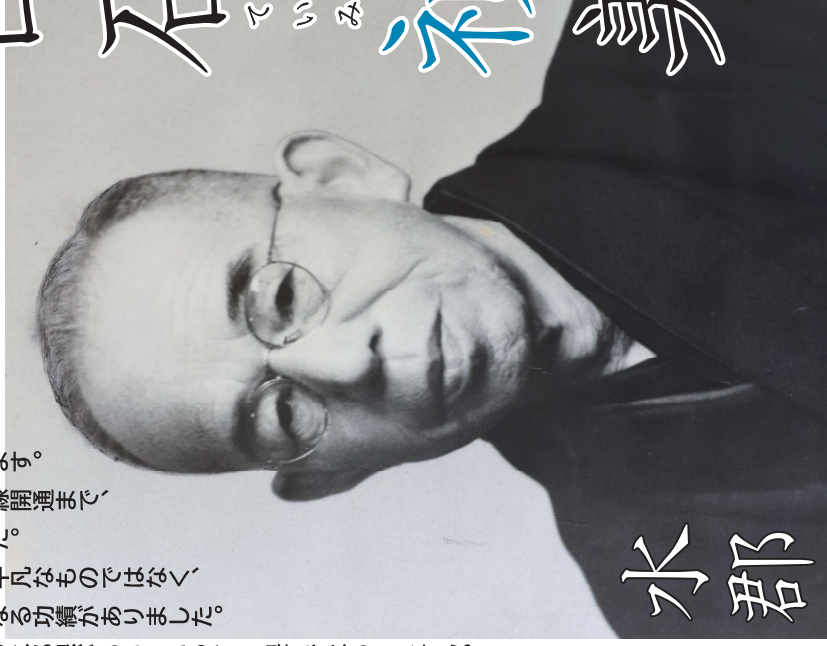
挿絵のマンガ  
 マンガがぶるさとの偉人  
 白石 碩美 ～埴町を築いた最初の町長～  
 発行：埴町（令和6年3月）

公益財団法人日本財団およびB＆G財団からの助成金を受け作成。  
 碩美の半生を描いたマンガとなっています。



# 埴町名誉町民・初代埴町長

## 白石 碩美



## 水郡線開通 への熱意

水郡線敷設の発端は、明治36年までさかのぼります。それ以来、昭和9年の全線開通まで、約30年の歳月が流れました。この間の歩みは、決して平凡なものではなく、偉大な先人の方々の多大なる功績がありました。その功績のおかげで今日の水郡線があるといっても過言ではありません。その代表的な先人である、埴町名誉町民で初代埴町長の白石碩美。碩美はどのようにして水郡線敷設に携わっていったのか、その功績を中心に水郡線の歩みを振り返ります。（敬称略）

向ヶ岡公園駐車場にある水郡鉄道完成記念碑。白石碩美・根本正・白石義郎3人の名前が刻まれています。

### 尽力するも失敗に終わった白高線の敷設計画

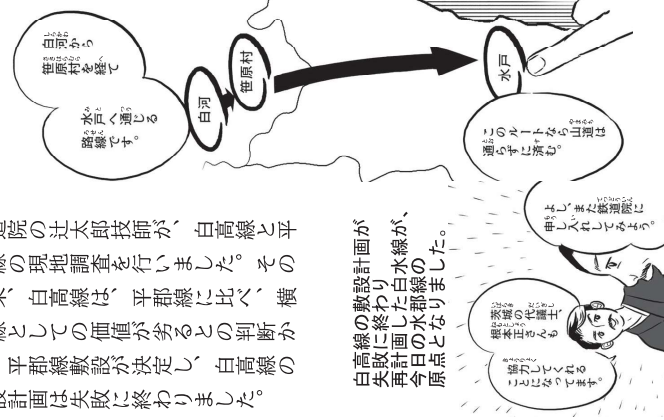
白石碩美は、先見の明により、交通の利便が近隣町村の住民の経済や産業の発展、福祉の向上へつながるという確固たる信念により、地元を通過する鉄道の敷設を目指し、明治36年ころ、常磐線と東北本線を結ぶ横断鉄道、白高線（白河から棚倉、埴町大字川上・片貝を通り、高萩駅を結ぶ）鉄道の敷設を考え始めました。しかし、当時の政府が、常磐線の平駅（現在のいわき駅）と東北本線の郡山駅を結ぶ平郡線（現在の磐越東線）の予備調査をしていることが分かり、一刻も早く、鉄道院に陳情をする必要性を感じた碩美は、若干28歳にして、単身で素人現地調査を行いました。茨城県境から高萩までの調査は容易ではありませんでした。約1年間、何回も繰り返し調査を行い、最良の地域路線を選定しました。これを、叔父である北海道代議士・白石義郎らに話し、鉄道院に陳情しました。

明治42年10月2日に、鉄道院から現地調査を行うという通知が届き、

### 界南地方の発展のため白水線敷設を再計画

平郡線敷設決定により、白高線敷設は断念せざるを得ず、碩美らは気落ちしていましたが、ここで諦めては、界南地方の発展はあり得ないとの思いから、心機一転、他の路線はないかと日夜検討した結果、横断線ではなく縦断線として、白水線

### 自分の人生をかけるに値する一大事業



白高線の敷設計画が失敗に終わった白水線が、今日の水郡線の原点となりました。

（白河→水戸）の敷設を検討し、早速、現地調査・測量を義郎に依頼しました。

碩美は、白水線を、水戸から久慈川沿いを走り、棚倉、白河へと通じる路線として計画。政府に敷設の要求をするためには、他の議員にも同意を求める必要があると考え、茨城県代議士・根本正に相談したところ、手を挙げて賛同し、根本は、敷設実現のため努力すると約束しました。

明治44年3月7日、白水線敷設に関する建議案が、帝国議会に提出されました。提出者は、根本、義郎、佐々木鉄太郎、柏原左源太の4代議員で、

明治13年、旧笹原村生まれ。笹原村村会議員、福島県会議員、同副議長、棚倉電気株式会社社長、福島県農工銀行頭取、株式会社福島貯蓄銀行取締役などを歴任。晩年は初代の埴町長を務める。昭和37年、83歳で永眠。平成17年、埴町名誉町民に推戴される。  
 （写真提供：白石碩彦氏）





白石義郎

榎美の叔父。板垣退助率いる自由党の党员であったことから、自由民権運動に身を投じる。常豊村長、福島県会議員、福島県選出代議士、初代の北海道庁釧路支庁長、初代の釧路町長、釧路新聞社長、小樽日報社長、北海道選出代議士を歴任。釧路港建設、北海道15カ年計画などに尽力(写真提供：白石慎彦氏)

佐々木、柏原の両代議士は、福島県選出の代議士です。審議の結果、同年3月17日の本会議において可決通過しました。

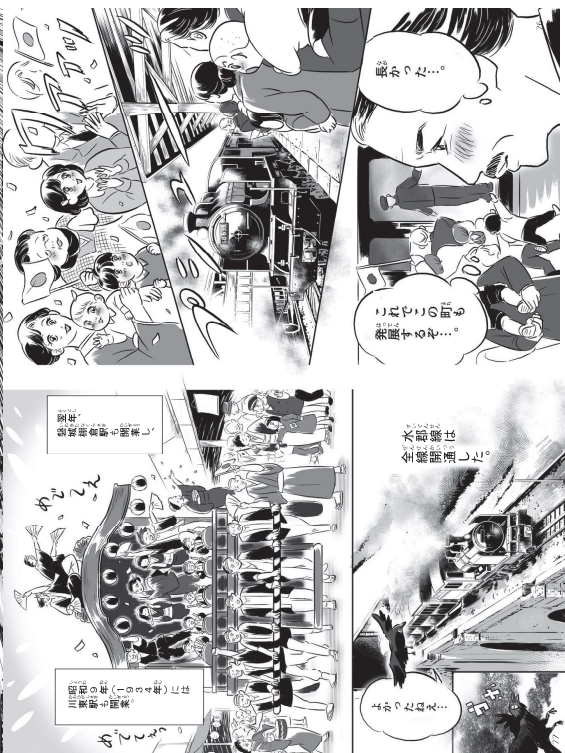
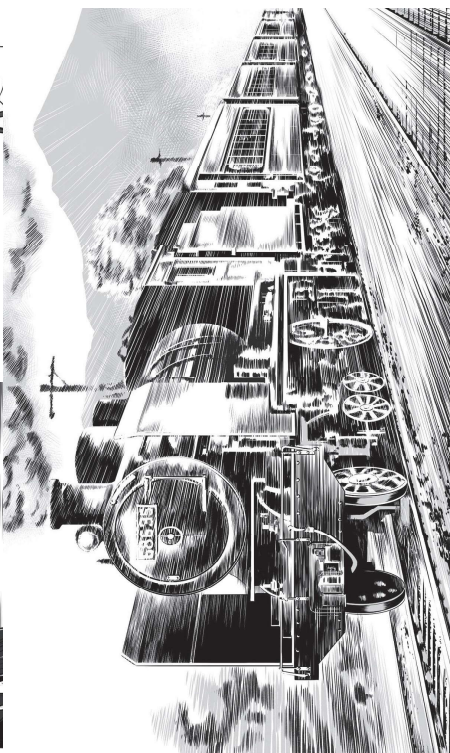
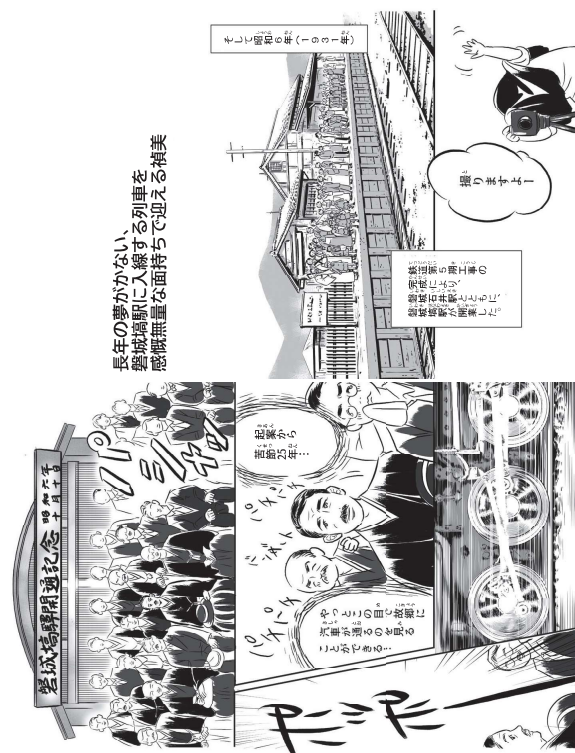
## 水郡線の基礎づくり 白水線から郡水線へ

建議案が国会を通過したことで、榎美と関係者は大いに喜びました。しかし、建議案が国会を通過しても、即敷設とはなりません。敷設するためには、政府が敷設のための予算を計上し、計上された予算が国会で承認されなければなりません。関係者らは、本鉄道の早期敷設の必要性を、鉄道院に何度も陳情しました。そして、明治44年9月14日、鉄道院建設

課長・石丸重美が現地調査のため派遣されました。

榎美と当時の袋田村長・桜岡力が、水戸において石丸と根本を出迎え、沿道の案内をしました。石丸の調査結果から、政府は必要路線と認定し、同年10月14日、鉄道院は現地測量を始めました。水戸から着手し、約半年後の明治45年2月22日、全線の測量が終了しました。

同年2月27日、第2回目の鉄道敷設に関する建議案が、帝国議院に提出されました。提出者は、根本、義郎両代議士外6名、賛成者は戸狩権之助外120名でした。今回の建議案では、白河のほかに郡山を加え、白水鉄道から郡水鉄道に名前を変更



## 人の話をよく聞く祖父でした

「人の話をよく聞く。そして返事をする。答えを出す」。そのような祖父の姿が思い出されます。また、私が子どものころ、友達と自宅の塀や屋根、庭木に登って大騒ぎをしたとき、子どもたちが元気に遊ぶことは何よりのことと、一度も叱られた覚えはありません。今は私自身も水郡線を利用しています。祖父が「交通改革なくして成長なし」と考え敷設に尽力した水郡線が、いつまでも走り続けることを願っています。

榎美のご令孫 白石慎彦氏 (上町)

東白商事株式会社 取締役会長

しました。審議の結果、本建議案は、同年3月6日可決通過しました。こうして、榎美、義郎らの多大なる尽力により、水郡線敷設の基礎づくりができました。

## 昭和9年12月4日 水郡線全線開通

大正2年3月に、水郡鉄道敷設に関する建議案が衆議院を通過しました。しかし、その後の政変により、建議案が否決されるなど、うやゆ曲折がありました。大正7年3月12日、建議案が再び可決、水郡鉄道を大郡鉄道(大宮〜郡山間)とし、大正8年2月4日、大郡鉄道敷設予算が可決。大正10年6月、工事が開始され、昭和2年3月10日、大郡線大宮〜大

わずか100戸たらずの農村だった塙が、町制実施まで発展したのは、ひとえに水郡線のおかげだった。

子間が全線開通しました。

昭和2年12月1日、鉄道省は、民間経営の水戸鉄道(水戸〜太田・大宮間)を買収し、大郡線から水郡線と改め、郡山から大子方面を水郡北線、大子から郡山方面を水郡南線とし、それぞれ工事を進めました。

昭和6年10月10日、水郡南線磐城塙駅開業、そして、昭和9年12月4日、磐城塙舎川東間が開通。これにより、水戸〜郡山間がレールつながり、水郡南北線の南北を削り、ここに、水郡線が全線開通。榎美が

約30年をかけて奮闘した一大事業はようやく完遂しました。

水郡線の開通により、町村間の住民や物資の交流は身近なものとなりました。榎美のこの功績は、塙町のみなならず、北関東〜福島県間の発展に多大なる影響を及ぼしました。

- 参考文献(4〜9頁)  
・水郡線ガイドブック  
「水郡線のルーツを探る」  
(白石榎美と根本正)  
・水郡線開通50周年記念  
※提供 白石慎彦氏







昭和30年当時、町役会館前の磐城埼駅舎

# 磐城埼駅 今昔

昭和6年10月10日、水郡線全線開通の3年後と前、磐城埼駅が開業しました。今年で開業93年になります。この間、蒸気機関車から自動車へ、貨物取り扱いの廃止や無人駅化、準急全面廃止、新型気動車導入など、磐城埼駅を取り巻く環境は、時代とともに変遷してきました。そして平成5年、町と水郡線の歴史を具現化した駅舎は、埼町コミュニティプラザと合築され、現在に至ります。環境が変わっても、私たちの重宝施設として、ティール音を山に響かせながら、今日も水郡線は走り続けています。

埼町コミュニティプラザ建設前の磐城埼駅舎

埼町コミュニティプラザ。町の情報発信基地、社会教育の拠点として、地域の期待を担っています。

## 埼町の発展とともに走り続けてきた水郡線

当初の水郡線は、蒸気機関車でしたが、昭和27年から気動車が導入され始め、昭和34年には旅客列車が全面気動車化。昭和45年に蒸気機関車は姿を消しました。水郡線は沿線地域の基幹産業の輸送機関として発展を続け、昭和40年代の初めは最盛期を迎えましたが、道路交通網が整備され、トラック輸送が主流となったことから、昭和55年、磐城埼駅の貨物取り扱いが廃止されました。また、自動車の普及、過疎化の進行により、乗客数も減少し続けたため、昭和58年のダイヤ改正で、準急の全面廃止や磐城埼駅が無人駅化されました。

その後、昭和62年の国鉄分割民

営化を経て、平成4年と19年には新型気動車が導入。利便性の向上とスピードアップが図られました。

磐城埼駅舎は、平成5年、埼町コミュニティプラザと合築され、生まれ変わりました。同施設は、駅のホームに沿って連なる「森」をイメージした8つの屋根をもつユニークな建物で、「木のまちはなわ」のシンボルとなっています。南側には町立図書館が併設され、駅舎と合築した全国でも珍しい施設となっていて、東北建築賞・福島県建築文化賞正賞・グッドデザイン賞など、数々の賞を受賞しました。

磐城埼駅が開業して今年で93年。環境が変わっても、水郡線はティール音を山に響かせながら、今日も走り続けています。



磐城埼駅の開業歴史を約28年務めている 紺野 康彦さん・秀子さん夫妻（材木町）

### 磐城埼駅のご利用をお待ちしています

磐城埼駅が無人駅化された後、私たちの父が最初の委託販売員となりました。その後、母となり、私たちが務めてからは約28年になります。声は乗客も多く、駅にも多くの人が集まりました。切符も機械化されました。切符は硬券（厚紙）でした。磐城埼駅では、新幹線、全国の乗車券を販売しています。購入するだけで、水郡線の利用実績が向上します。多くの皆さんの磐城埼駅のご利用をお待ちしています。

## 水郡線90年の歩み

- 昭和6（1931）年10月
- 昭和9（1934）年12月
- 昭和29（1954）年7月
- 昭和30（1955）年12月
- 昭和35（1960）年12月
- 昭和39（1964）年5月
- 昭和41（1966）年2月
- 昭和45（1970）年3月
- 昭和55（1980）年11月
- 昭和58（1983）年6月
- 昭和62（1987）年4月
- 平成4（1992）年3月
- 平成5（1993）年12月
- 平成19（2007）年1月
- 平成23（2011）年3月
- 平成23（2011）年4月
- 平成23（2011）年7月
- 令和元（2019）年10月
- 令和3（2021）年3月
- 令和3（2021）年10月
- 令和5（2023）年4月
- 令和5（2023）年10月
- 令和6（2024）年10月
- 令和6（2024）年11月
- 令和6（2024）年12月

磐城埼駅開業

磐城 棚倉、川東間開通し、水郡線全線開通

旅客・貨物全面的分離実施

全面気動車化（通勤・通学列車を除く）実施

水郡線準急「奥久慈号」が上野と磐城石川間に新設（水戸から特急「ひたち」と併結 乗り換えなし）と

水郡線準急「スカイライン」号と「奥久慈号」が水戸と福島間に新設（乗り換えなし）

水郡線の信号機が色燈化

水郡線管内から、蒸気機関車が全面廃止

磐城埼駅貨物取り扱い廃止

水郡線CTC（列車集中制御装置）化実施  
水郡線ダイヤ改正  
・水郡線準急全面廃止  
・磐城埼駅無人駅化

国鉄分割民営化。JRに

新型気動車（キハ110系）導入。  
ワンマン運転開始

埼町コミュニティプラザ（磐城埼駅舎）完成

新型気動車（キハE130系）導入

東日本大震災による被害が発生

全線運転再開

水郡線の愛称が「奥久慈清流ライン」に決定

台風1号により甚大な被害が発生。一部区間不通に

約1年5カ月ぶりに全線運転再開

全線運転再開記念列車に、「フレ！」の旗を水郡線「はなわ」も国前）



磐城埼駅が開業して90年

サイクルトレイン無人駅の実証実験  
モデル駅として磐城埼駅が追加。運用開始

「駅からサイクリング」奥久慈清流2023開催

内堀雄雄県知事と宮田泰利町長らが水郡線磐城浅川・磐城埼開業車

「水郡線で行こう！ 久慈川サイクリング」開催

水郡線全線開通90周年記念イベント「はなわ鉄道博」が

磐城埼駅・埼町夜場など開催

水郡線全線が開通して90年

昭和32年当時の磐城埼駅付近



旧磐城埼駅舎（前）と先行して建てられた町立図書館（奥）



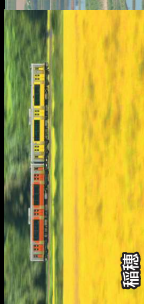
多くの皆さんが運転再開を喜びました。（磐城埼駅付近・はなわも国前）







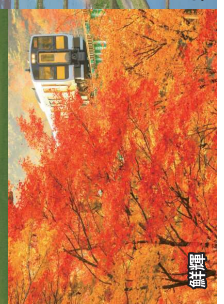
落陽



稲穂



夏空



鮮輝

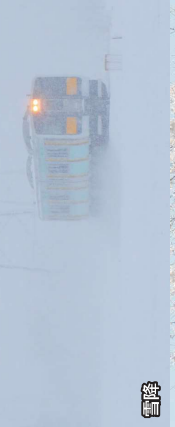


後世に残したい風景がそこにあります

水鏡



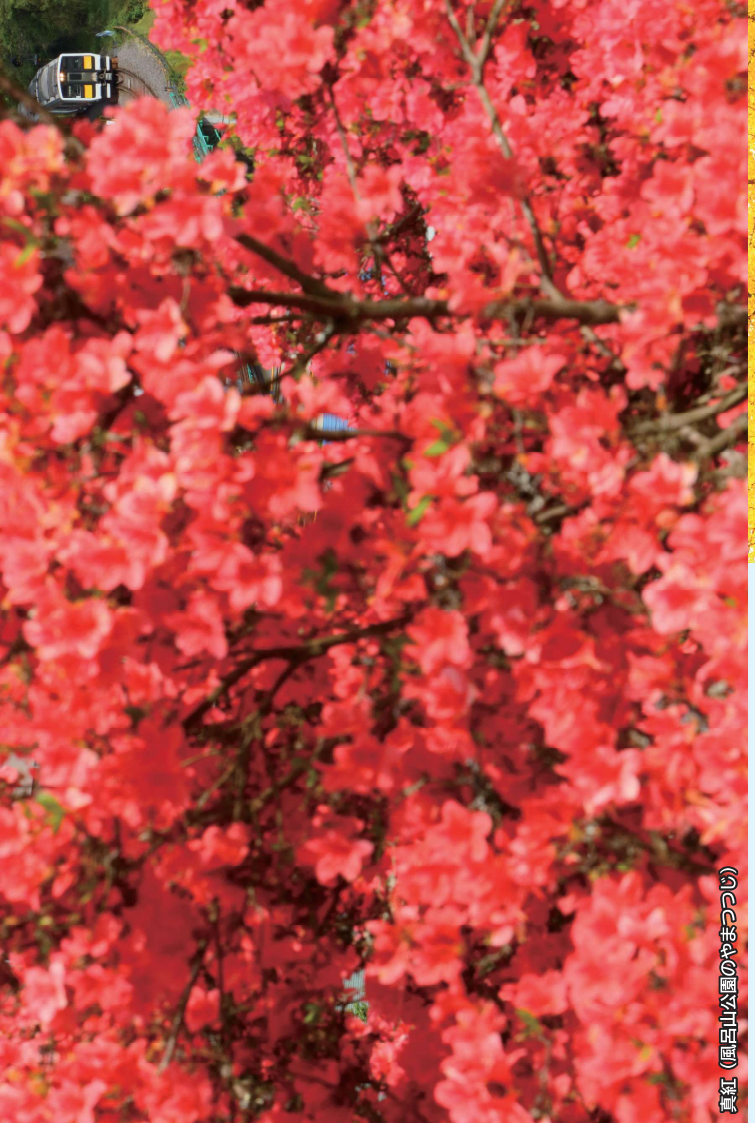
華園（磐城駅前のミニシアター前）



雪降



霜降



真紅（風呂山公園のやまつじ）



黄金

四季折々の美しい風景の中を走る鉄道

# フオク水郡線



| 区 間                    |           | 平均通過人員 (人/日) (※)                                  |       |       |        |        |        |        |       |       |       |
|------------------------|-----------|---------------------------------------------------|-------|-------|--------|--------|--------|--------|-------|-------|-------|
|                        |           | 昭和62年度                                            | 平成4年度 | 平成9年度 | 平成14年度 | 平成19年度 | 平成24年度 | 平成29年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 |
| 水戸～安積永盛<br>上菅谷～常陸太田    | 水戸～安積永盛   | 2,762                                             | 2,518 | 2,553 | 2,299  | 2,124  | 1,803  | 1,697  | 1,334 |       |       |
|                        | 上菅谷～常陸太田  | 7,921                                             | 7,819 | 7,814 | 7,237  | 6,778  | 5,813  | 5,478  | 4,476 |       |       |
| 水戸～常陸大宮<br>常陸大宮～常陸大子   | 水戸～常陸大宮   | 2,458                                             | 2,207 | 2,091 | 1,861  | 1,588  | 1,143  | 1,001  | 720   |       |       |
|                        | 常陸大宮～常陸大子 | 788                                               | 521   | 512   | 407    | 324    | 262    | 236    | 143   |       |       |
| 常陸大子～磐城塙間<br>磐城塙間～安積永盛 | 常陸大子～磐城塙間 | 1,608                                             | 1,310 | 1,510 | 1,279  | 1,198  | 1,090  | 1,043  | 811   |       |       |
|                        | 磐城塙間～安積永盛 | 3,233                                             | 3,062 | 2,861 | 2,774  | 2,818  | 2,554  | 2,573  | 1,996 |       |       |
| 上菅谷～常陸太田               |           | [平均通過人員 (1日1回当たりの利用者数)] = [年度内旅客輸送人口] ÷ [年度内営業日数] |       |       |        |        |        |        |       |       |       |

## 年々減少している利用者

かつては住民の通勤や買い物、旅行などで利用されていた水郡線は、近年、沿線人口の減少や自家用車の普及など、路線を取り巻く状況の変化により、利用者が年々減少しています。

「表 水郡線の利用状況」をご覧ください。これは、JR東日本が公表している、1日当たりの平均の利用者数を表しています。この中で、1番利用者が少ない区間は、常陸大子～磐城塙間(25.7き)で、昭和62年度の利用者数788人に対し、令和4年度は143人と、645人減少しています。

また、沿線住民に現状を理解してもらおうとともに、持続可能な交通体系について議論してもらうため、JR東日本が令和6年10月に公表した、令和5年度における1000円の収入を得るのに必要な経費(営業係数)は、同区間で5

452円(赤字:5億2100万円)となっています。

## 水郡線を次世代に

水郡線の利用状況や運行に伴う必要経費など、数値データだけをみる限り、楽観できる状況ではないことは明らかです。

### 水郡線活性化対策協議会

- 目的  
水郡線の利便性改善などによる住民福祉の向上と、水郡線が活性化することによって、地域交通ネットワークの充実、地域産業の振興をはじめとした沿線地域の均衡ある発展を図る。
- 構成自治体 (県と11市町村)  
福島県・郡山市・須賀川市・玉川村・石川町・浅川町・棚倉町・塙町・矢祭町・平田村・古殿町・鮫川村
- 会長(敬称略)  
首藤 剛太郎 (石川町長)
- 主な活動内容 (令和5年度)  
①水郡線の活性化方策などの検討  
②陳情、要望活動などの実施  
③JR東日本との意見交換会などの実施  
④利用促進事業の実施  
・カレンダーの作成と配布  
・ホームページの運営  
⑤茨城県との連携事業の実施  
・児童絵画展の開催  
・公式ツイッターの管理・運営  
⑥ワーキンググループの開催  
・構成自治体若手職員とJR東日本水戸支社社員による水郡線利用促進のための施策の提案

しかし、水郡線の存続を単に「採算性のある・なし」で判断するのではなく、これまで水郡線が育んできた人々の流れや経済効果、地域の発展、暮らしやすさや利便性、水郡線が走ることによる景観の創出など、数値化しきれない価値をあらためて問い直し、先人たちの「鉄道は100年の計」との思いで敷設された水郡線を、さらにいものにして次世代に伝えていくことが、今必要なことではないでしょうか。

今日の水郡線の現状は、さまざまな要因から厳しさを増し続けています。

東日本旅客鉄道株式会社(JR東日本)が公表した令和5年度の収支によりますと、常陸大子～磐城塙間では、100円の利益を得るのに5452円の経費が掛かっています。

このように利用状況は非常に厳しいですが、これまで水郡線が育んできたさまざまな恩恵は、数値化しきれない「プラス」の部分があります。

先人たちの熱い思いで敷設された水郡線を、さらにいものにして次世代に伝えていく。このことが今、必要です。

県と水郡線沿線自治体で構成される「水郡線活性化対策協議会」では、JR東日本などと連携し、水郡線の利用促進・路線活性化などさまざまな取り組みを行っています。

11月では、水郡線の現状について整理します。

# 常陸大子～磐城塙間 100円の利益 ⇕ 5,452円の経費 水郡線の現状





# 「地元の鉄路＝マイルール」

## これから水郡線とともに

各地の鉄道沿線では、  
地元での取り組みから鉄道を支える  
「地元の鉄路＝マイルール」活動が  
展開されはじめています。  
自転車による地域活性化のため、  
東白川郡4町村で構成される、  
「東白川地方自転車活用推進協議会」などでは、  
水郡線の活性化に向け、  
「サイクルトレイン」を利用した  
各種イベントを展開しています。  
これらの取り組みを中心に、  
水郡線の「これから」を考えます。



「水郡線サイクルトレイン」を利用されるサイクリストの皆さん。  
一番手前の左に写るのは、  
「シモンズ」こと、元プロ自転車ロードレーサーの下島将輝さん。  
同じく右に写るのは、  
「ハヤティ」こと、プロ自転車ロードレーサーの西尾勇人さん。  
共に元端町地域おこし協力隊員。同じく協力隊員であった妻・知里さんと阿に居は。  
このうち下島さんは、同じく協力隊員の運営プロデュースを委託されています。

### 水郡線サイクルトレイン 磐城堀倉駅利用可能へ

令和3年5月、当時有人駅だった磐城堀倉駅と茨城県側の4駅で、自転車を解体するか折りたたんで専用の袋（輸行袋）に入れるのではなく、そのまま列車に持ち込める「水郡線サイクルトレイン」の実証実験が始まりました。

土日祝日を対象に、期間限定で行われたこの実証実験は、利用したサイクリストの皆さんから好評だったため、令和4年4月から本運用となり、土日祝日であればいつでも利用できるようになりました。しかし、時を同じくして磐城堀倉駅が無人駅化され、安全上の観点から有人駅のみが対象となる

ことから、県内の利用可能駅は磐城石川駅のみとなりました。

そこで、県内でのサイクリストの皆さんの利用が少ない現状を打破するため、令和元年10月、自転車による地域活性化のために設立された、「東白川地方自転車活用推進協議会」が中心となり、東白川郡内に利用可能駅を設置するよう、東日本旅客鉄道株式会社（ＪＲ東日本）水戸支社に要望してきました。その結果、令和5年4月29日（土）、無人駅の実証実験モデル駅として磐城堀倉駅と磐城堀倉駅が追加されました。

現在では、県内で18駅、茨城県側で20駅、計38駅で利用可能となっています。

### 水郡線を未来へとつなぐ サイクルトレイン

「朝、やっと目を覚ましたホームに慣れない光景がひろがっていた。カラフルな衣装に身を包み、自転車を持った大人たちが表情豊かに列車に乗り込んだ。」

令和5年10月29日（日）、一駅

からサイクリングin奥久慈街道2023」が行われ、30人のサイクリストの皆さんが参加しました。当日は水郡線車両を貸し切り、水戸駅から乗車して矢祭山駅で下車。その後、久慈川サイクリングロードを自走し、磐城堀倉駅から再び列車で水戸駅に戻る行程で行われ、好評を博しました。

また、令和6年7月21日（日）に行われた「久慈川サイクリング」では矢祭山・磐城堀倉間で、同年10月27日（日）に行われた「水郡線で行こう！ 久慈川サイクリング」では水戸・磐城堀倉間および矢祭山・水戸間で、水郡線サイクルトレインが利用されました。

| 東白川地方<br>自転車活用推進協議会 |                              |
|---------------------|------------------------------|
| ■設立                 | 令和元年10月8日                    |
| ■会長                 | 秀利（堀町長）                      |
| ■アドバイザー（敬称略）        | 宮田 アドバイザー                    |
| ■構成団体               | 東京大学教授 千葉 学                  |
| ■活動目的               | 県内連団体・磐城町・矢祭町・堀町・駿川村・民間事業者   |
| ■活動目的               | 自転車の活用推進を図り、東白川地方の地域振興を推進する。 |

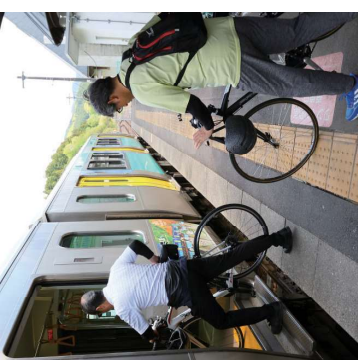


協議会が推進する「地域活性化事業（制式）」により、7月1日（月）から町に居住。業務に当たっています。

町が取り組んでいる「自転車を活用したまちづくり」を円滑に推進していくため、自転車事業の運営支援などを行っている野地教諭さんは、

「専用袋に収納する輸行と違い、自転車を分解せずにそのまま乗れるサイクルトレインは、精神的にも物理的にもサイクリストの皆さんにとって大きなアドバンテージ（利点）となります」と、サイクルトレインの必要性を話します。

東白川地方自転車活用推進協議会ではこれからも、ＪＲ東日本水戸支社、そして地域の皆さんなどと連携しながら、より多くのサイクリストの皆さんが訪れることで地域活性化につながる取り組みを推進し、「水郡線を未来へとつなぐ」ためのさまざまな施策を行っていきます。



自転車をそのまま列車に持ち込めるので、サイクリストの皆さんの利便性が格段に向上しました。（磐城堀倉駅）



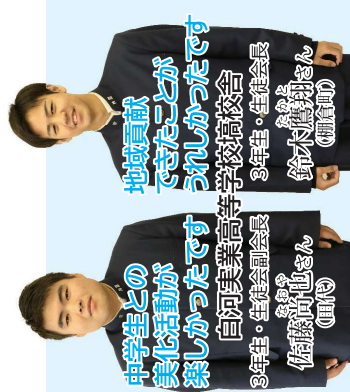
# 私たちも水郡線を 応援しています

水郡線が大好きで、列車に手を振る園児たち。  
磐城塙駅を利用する皆さんのために、  
美化活動を行う生徒たちやダリアを手入れする皆さん。  
いつまでも走り続けてほしい！  
皆さんの思いはひとつです。



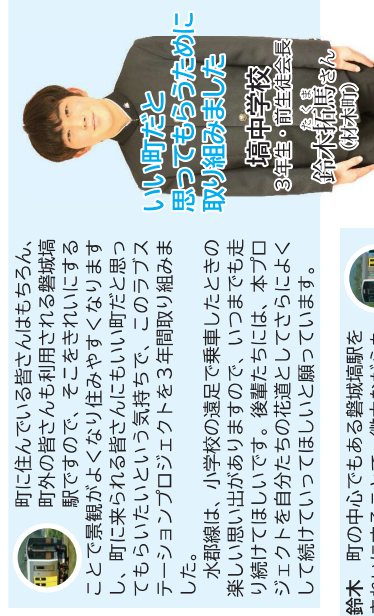
## ラプステーションプロジェクト

6月7日（金）、白河実業高等学校園芸部と郡中  
学校の生徒たちが協力して、磐城塙駅周辺の美化活  
動を行いました。



**中学生との  
美化活動が  
楽しかったです**  
自河実業高等学校園芸部  
3年生・生徒会長  
佐藤尚也さん  
（17歳）

**地域貢献  
できたことが  
うれしかったです**  
白河実業高等学校園芸部  
3年生・生徒会長  
鈴木鷹雄さん  
（17歳）



**いい町だと  
思ってもらいために  
取り組みました**  
郡中学校  
3年生・前生徒会長  
鈴木航馬さん  
（16歳）

町に住んでいる皆さんはもちろん、  
町外の皆さんも利用される磐城塙  
駅ですので、そこをきれいにする  
ことで景観がよくなり住みやすくなります  
し、町に来られる皆さんにもいい町だと思っ  
てもらいたいという気持ちで、このラプス  
テーションプロジェクトを3年間取り組みま  
した。

水郡線は、小学校の遠足で乗車したときの  
楽しい思い出がありますので、いつまでも走  
り続けてほしいです。後輩たちには、本プロ  
ジェクトを自分たちの花道としてさらによく  
して続けてほしいと願っています。

鈴木 町の中心でもある磐城塙駅を  
きれいにすることで、微力ながらも  
地域貢献できていることがとても  
うれしく、楽しみながら美化活動を行いました。  
町を訪れた皆さんが、「きれいな塙町」と少し  
でも思っていたら幸いです。

佐藤 多くの皆さんが利用される磐城塙駅を、  
普段交流する機会が少ない郡中学校の生徒たち  
と一緒に美化活動できたことは、とても楽し  
かったです。私自身、子どものころから水郡線  
には印象がありますので、「塙町」といったら水  
郡線」みたいな印象もずっと残り続けていい  
と思います。



美化活動を行う生徒たち  
（磐城塙駅周辺）

列車に手を振る  
保育部「ばんだ」「ひつじ」組の  
園児たち（2歳児）

はなわこども園の園児たちは、  
いつも元気いっぱい。みんなで  
楽しく遊んでいます。そして、  
汽笛が鳴り、水郡線が走ってくると、いっ  
せいに手を振り、列車を見送ります。その  
ほほ笑ましい光景は、見る人の心を和ませ  
ています。

わ〜い！ オレンジいろだ〜！

みんなで手を振り  
列車を見送る  
はなわこども園の  
園児たち  
そのほほ笑ましい光景は  
見る人の心を和ませています



かっさいいな〜

バイバイ〜  
またね〜



「はなわのダリア」を  
楽しんでいただくために  
手入れをしています

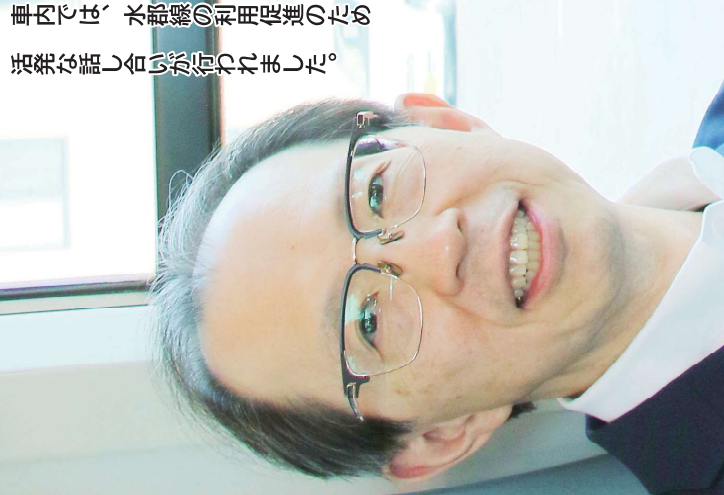
ダリアの手入れ作業を  
行う皆さん（磐城塙駅）

老人会（第2百寿会）  
の方々が手入れをさ  
れていた磐城塙駅の  
ミニダリア園。解散後、塙駅で  
お客さんを出迎えるダリアをな  
くしてはならないと、観光協会  
で手入れをすることにしました。  
「はなわのダリア」を楽しんでいた  
塙駅を利用される皆さんに、  
だけるよう、職員一同、不慣れ  
ながらも畑を耕し、施肥や消毒  
など、ダリア栽培に励んでいます。



一般社団法人  
塙町観光協会の皆さん





10月15日(火)、  
内堀雅雄県知事と宮田秀利町長が  
全線開通90周年を迎えることを機に  
水郡線に乗車しました。  
両名は、磐城浅川駅から  
午後2時42分発の  
上り水戸行きに乗車し、  
午後3時2分磐城塙駅で下車。  
磐城塙駅舎(コニエニエイブナザ)前で囲み取材を受けた後、  
役場庁舎2階中会議室で意見交換を行いました。  
車内では、水郡線の利用促進のため  
活発な話し合いが行われました。

素晴らしい周囲風景、久慈川を越える橋梁。景色が最高でした。また、宮田町長さんや下島さんと意見交換ができる、貴重な機会となりました。  
多くの皆さんが水郡線「マイトレイン」「マイルール」「マイ駅舎」に関心を持ち利用していただくと、地域が活性化することを期待しています。  
そして、サイクルトレインを利用しながらこの地域でサイクリングを楽しむ、「サイクルツーリズム」をこれからも広げていくとともに、県の建築文化賞を受賞し非常に価値のある磐城塙駅舎を、90周年事業の中でPRしていきたいと考えています。

昭和39年3月26日長瀬県生まれ。60歳。  
東京大学経済学部卒業。平成18年福島県生活環境政策課、生活環境部長、企画調整部長を経て、平成18年12月から平成26年9月まで副知事。平成26年11月に知事に就任(現在3期目)

福島県知事

内堀 雅雄

うちばり まさお

UCHIBORI Masao



輸行袋(公共交通機関用の自転車収納袋)の説明を受けます。(磐城浅川駅)



車窓の美しい風景を眺めながら会話が弾みました。

下島将輝さん(左)と、伊藤智樹(県南地方振興局長(仮))も同乗。下島さんはサイクルトレインの利用を通して、水郡線の利活用に関わっています。下島さんは、「非常に多くの方が水郡線サイクルトレインを利用し、この地域でサイクリングを楽しんでいます」と、内堀県知事に伝えました。



# 首長、水郡線に乗車

内堀県知事におかれましては、大変お忙しい中、水郡線に乗車していただき、ありがとうございます。おかげさまで、もちまして、大変有意義な意見交換をすることができました。  
また毎年、知事には塙町に参町していただき、町の取り組みをみていただけることも、非常に有益なことと考えております。これを励みに、水郡線や町の活性化に向け、さらに取り組んでいくという強い気持ちを持った次第であります。

昭和25年2月8日塙町生まれ。74歳。  
東北工業大学建築学科卒業。平成12年3月から平成24年3月まで塙町議会議員(監査委員2期)。平成28年7月に町長に就任(現在3期目)

塙町長

秀利

MIYATA Hidetoshi

宮田

みやた ひでとし



磐城塙駅前で行われた囲み取材が行われました。



## 皆さんの声をお聞かせください

今後の水郡線に関する施策や協議の参考にさせていただきたく、列車や駅についての利用促進案や前向きな意見などがあれば、ぜひお聞かせください。

### ■問い合わせ先

福島県生活交通課

☎ 024-521-8495

E-mail

koutsuu@pref.fukushima.lg.jp

水郡線活性化対策協議会  
(石川町企画商工課内)

☎ 0247-26-9114

E-mail

kikaku@town.ishikawa.fukushima.jp

埴町まち振興課

☎ 0247-43-2112

E-mail

sinko@town.hanawa.fukushima.jp

# 水郡線よ、永遠なれ

町の偉大な先人である目石楨美氏や目石義郎氏らのおかげで水郡線が全線開通し、今日まで走り続けてきました。

地域産業の促進、町の活性化の大きな動脈としての役割を果たしてきた水郡線が、今年で全線開通90周年を迎えたことは、記念すべきことと同時に大変大きな意味をもつことになります。

その一方で、自動車の普及や過疎化の進行などにより、今日の水郡線の現状は厳しく、乗客数は減少しています。

改善に向けさまざまな施策は行っていますが、今すぐ乗客数を増やす抜本的な解決策は、正直なところありません。

まずは、「たまには水郡線を利用してみる」「新幹線などを利用するときは水郡線の駅で切符を買ってみる」「など、私たちがまずできることから始め、

地域に寄り添い続けてきた水郡線を応援することが必要なのではないのでしょうか。

地域の将来を考えたとき、水郡線は大切な財産であり、かけがえのないものです。全線開通90周年を機に、私たちはよりいっそう、水郡線の魅力やありがたさを再確認する必要があります。

先人たちの熱い思いを守り続けるために、そして私たちの重要な足として走り続けるために。

これから水郡線は走り続けていく。  
私たちのシンボルとして、  
この先もずっと――。



特集

Suigun Line 90<sup>th</sup> Anniversary

# 走り続けて90年

【終わり】

